

# Pervasive PSQL v11 SP1

---

## *Installation Toolkit Handbook*

How to Integrate Pervasive Program Installations into Your Own



## 免責事項

Pervasive Software Inc. は、本ソフトウェアおよびドキュメントの使用を、利用者またはその会社に対して「現状のまま」で、かつ同梱の使用許諾契約書に記載の契約条件によってのみ許諾するものです。Pervasive Software Inc. は、いかなる場合にも本ソフトウェアおよび本マニュアルに記載された内容に関するその他の一切の保証を、明示的にも黙示的にも行いません。Pervasive Software Inc. は、市場性、権利、特定の目的に対する適合性、あるいは一連の取引業務や職業的な使用に関する問題などに対し、一切の保証を行わないことを明示するとともに、利用者およびその会社がこれに同意したものとします。

## 商標

Btrieve、Client/Server in a Box、Pervasive、Pervasive Software および Pervasive Software のロゴは、Pervasive Software Inc. の登録商標です。

Built on Pervasive Software、DataExchange、MicroKernel Database Engine、MicroKernel Database Architecture、Pervasive.SQL、Pervasive PSQL、Solution Network、Ultralight、ZDBA は Pervasive Software Inc. の商標です。

Microsoft、MS-DOS、Windows、Windows 95、Windows 98、Windows NT、Windows Me、Windows 2000、Windows Server 2003、Windows 2008、Windows 7、Windows XP、Win32、Win32s、および Visual Basic は、Microsoft Corporation の登録商標です。

NetWare および Novell は Novell, Inc. の登録商標です。

NetWare Loadable Module、NLM、Novell DOS、Transaction Tracking System、TTS は、Novell, Inc. の商標です。

Sun、Sun Microsystems、Java、および Sun、Solaris、Java を含むすべての商標やロゴは、Sun Microsystems の商標または登録商標です。

すべての会社名および製品名は各社の商標または登録商標です。

© Copyright 2011 Pervasive Software Inc. All rights reserved. このマニュアルの全文、一部に関わりなく複製、複写、配布をすることは、前もって発行者の書面による同意がない限り禁止します。

本製品には、Powerdog Industries により開発されたソフトウェアが含まれています。

© Copyright 1994 Powerdog Industries. All rights reserved.

本製品には、KeyWorks Software により開発されたソフトウェアが含まれています。

© Copyright 2002 KeyWorks Software. All rights reserved.

本製品には、DUNDAS SOFTWARE により開発されたソフトウェアが含まれています。

© Copyright 1997-2000 DUNDAS SOFTWARE LTD. All rights reserved.

本製品には、Apache Software Foundation Foundation (<http://www.apache.org/>) により開発されたソフトウェアが含まれています。

本製品ではフリー ソフトウェアの unixODBC Driver Manager を使用しています。これは Peter Harvey ([pharvey@codebydesign.com](mailto:pharvey@codebydesign.com)) によって作成され、Nick Gorham ([nick@easysoft.com](mailto:nick@easysoft.com)) により変更および拡張されたものに Pervasive Software が一部修正を加えたものです。Pervasive Software は、unixODBC Driver Manager プロジェクトの LGPL 使用許諾契約書に従って、このプロジェクトの現在の保守管理者にそのコード変更を提供します。unixODBC Driver Manager の Web ページは [www.unixodbc.org](http://www.unixodbc.org) にあります。このプロジェクトに関する詳細については、現在の保守管理者である Nick Gorham ([nick@easysoft.com](mailto:nick@easysoft.com)) にお問い合わせください。

GNU Lesser General Public License (LGPL) は本製品の配布メディアに含まれています。LGPL は [www.fsf.org/licenses/licenses/lgpl.html](http://www.fsf.org/licenses/licenses/lgpl.html) でも見ることができます。

**Installation Toolkit Handbook**

一般リリース 2011 年 7 月

138-004429-002

# 目次

このマニュアルについて . . . . .	v
このマニュアルの読者 . . . . .	vi
このマニュアルの構成 . . . . .	vii
表記上の規則 . . . . .	viii
<b>1 Pervasive PSQL インストールのカスタマイズ . . . . .</b>	<b>1</b>
Pervasive PSQL インストールプログラムのカスタマイズおよび組み込み方法	
カスタム インストールの概要 . . . . .	2
セットアップ実行可能ファイルの使用に適した状況 . . . . .	2
MSI の使用に適した状況 . . . . .	2
MSI テクノロジ . . . . .	3
PTKSetup.ini . . . . .	4
Pervasive PSQL のインストール実行後の設定 . . . . .	7
システム パフォーマンスの向上 . . . . .	7
インストールのシンプルなカスタマイズ . . . . .	9
MSI オプションを使用したインストール . . . . .	9
PTKSetup.ini 設定を使用したインストール . . . . .	13
MSI オプションと PTKSetup.ini 設定を使用したインストール . . . . .	14
インストールの高度なカスタマイズ . . . . .	17
CAB ファイルを使用したインストール パッケージ サイズと各種機能の変更 . . . . .	17
カスタム ファイル選択による組み込みインストールの開発 . . . . .	21
インストールをカスタマイズする変換の作成 . . . . .	21
製品アップデート (パッチ) のアンインストール . . . . .	24

# 表

1	Pervasive PSQL v11 MSI およびセットアップ実行可能ファイルの名前 . . . . .	3
2	PTKSetup.ini のプロパティのカテゴリとキー . . . . .	5
3	エンジンのインストール タイプ別に必要なキャビネット ファイル . . . . .	18
4	エンジンのインストール タイプ別オプション機能のキャビネット ファイル . . . . .	18
5	オプション機能のキャビネット ファイルの要件 . . . . .	20

# このマニュアルについて

---

このマニュアルには、Pervasive 製品のインストールプログラムをほかのアプリケーションのインストールプログラムに組み込む方法に関する開発者向けの情報が記載されています。

---

## このマニュアルの読者

このマニュアルは、Pervasive PSQL v11 SP1 を使って Windows オペレーティング環境向けのアプリケーションを開発する開発者、および Pervasive PSQL v11 を配置する IT 管理者を対象としています。

---

## このマニュアルの構成

このマニュアルの各章について簡単に説明します。

次の章では Pervasive PSQL Installation Toolkit の使用法に関する概念と手順を説明し、作成したアプリケーションのインストール プロシージャに Pervasive インストールの全部または一部をバンドルできるようにします。

- 第1章 「Pervasive PSQL インストールのカスタマイズ」

この章では、Windows Installer テクノロジーを使用した Pervasive PSQL コンポーネントの組み込みについて説明します。

このマニュアルの巻末には索引が用意されています。

---

## 表記上の規則

特段の記述がない限り、コマンド構文、コード、およびコード例では、以下の表記が使用されます。

大文字小文字の 区別	通常、コマンドと予約語は、大文字で表記されます。本書で別途記述がない限り、これらの項目は大文字、小文字、あるいはその両方を使って入力できます。たとえば、MYPROG、myprog、またはMYprogと入力することができます。
太字	太字で表示される単語には次のようなものがあります。メニュー名、ダイアログ ボックス名、コマンド、オプション、ボタン、ステートメントなど。
固定幅フォント	固定幅フォントは、コマンド構文など、ユーザーが入力するテキストに使われます。
[ ]	省略可能な情報には、 <code>[log_name]</code> のように、角かっこが使用されます。角かっこで囲まれていない情報は必ず指定する必要があります。
	縦棒は、 <code>[file name   @file name]</code> のように、入力する情報の選択肢を表します。
< >	< > は、 <code>/D=&lt;5 6 7&gt;</code> のように、必須項目に対する選択肢を表します。
変数	<i>file name</i> のように斜体で表されている語は、適切な値に置き換える必要のある変数です。
...	<code>[parameter...]</code> のように、情報の後に省略記号が続く場合は、その情報を繰り返し使用できます。
::=	記号 ::= は、ある項目が別の項目用語で定義されていることを意味します。たとえば、 <code>a::=b</code> は、項目 <i>a</i> が <i>b</i> で定義されていることを意味します。

# Pervasive PSQL インストール のカスタマイズ

# 1

---

## Pervasive PSQL インストール プログラムのカスタマイズおよび組み込み方法

この章では、Pervasive PSQL インストールをカスタマイズする方法の概念および手順について説明します。Pervasive PSQL インストールのカスタマイズでは、Pervasive PSQL 製品の全部または一部を貴社のアプリケーションにバンドルすることが可能です。この章では、以下の項目について説明します。

- 「[カスタム インストールの概要](#)」
- 「[インストールのシンプルなカスタマイズ](#)」
- 「[インストールの高度なカスタマイズ](#)」
- 「[製品アップデート（パッチ）のアンインストール](#)」

## カスタム インストールの概要

ここでは、Pervasive Software が Pervasive PSQL 製品インストールで使用するテクノロジーおよびカスタマイズ設定の概要について説明します。Pervasive PSQL v11 インストールで使用されるテクノロジーは Microsoft Windows Installer (MSI) です。カスタマイズ用の設定は PTKSetup.ini ファイルにあります。

## セットアップ実行可能ファイルの使用に適した状況

ほとんどのインストールシナリオでは、インストールにセットアップ実行可能ファイルを使用する必要があります。セットアップ実行可能ファイルは InstallShield ブートストラップパッケージで、インストールを実行する前にさまざまなチェックを行います。また、セットアップ実行可能ファイルは、MSI インストールを起動する前に、ターゲットシステムに必要な Windows インストーラーサービスのバージョンの検出とインストールも行います。要件を満たすバージョンの MSI がターゲットシステムにあることを確認できた場合は、セットアップ実行可能ファイルが自動的に MSI インストールを起動します。インストールしようとするシステムに Pervasive PSQL でサポートされる MSI テクノロジーのバージョンが含まれているかどうか不明な場合は、セットアップ実行可能ファイルを使用してください。

## MSI の使用に適した状況

ご自身のソフトウェアアプリケーションに Pervasive PSQL v11 をバンドルする場合は、MSI ファイルによる Pervasive PSQL v11 インストール処理を使用することをお勧めします。MSI ファイルを用いれば、Pervasive PSQL でサポートされるバージョンの Windows インストーラーがターゲットシステムに含まれている場合、ソフトウェアアプリケーションのインストール時に Pervasive PSQL インストールを呼び出すことができます。Microsoft Windows Vista 以上では、MSI ファイルを用いた Pervasive PSQL インストールを実行する前に、Pervasive PSQL インストールを呼び出す処理が、昇格されたユーザー資格情報で実行されている必要があります。



**ヒント** Pervasive PSQL v11 は Windows インストーラー v3.1 を使用します。Windows インストーラーがお使いのシステムにあった場合、そのバージョンを調べるには、コマンドプロンプトで「MSIExec /?」と入力します。

---

## MSI テクノロジ

MSI テクノロジの詳細については、Microsoft のマニュアルおよび Web サイトを参照してください。Windows インストーラーで使用可能なオプションやパラメーターは、DOS プロンプトで以下のコマンドを入力して使用できます。

```
MSIEXEC.EXE /?
```

このマニュアルではこの情報についてこれ以上の説明を行いません。その代わりに、貴社の Pervasive PSQL v11 インストールをカスタマイズするために MSI テクノロジを使用する実例を提供します。



**メモ** Windows Vista 以降のオペレーティング システムで MSI テクノロジを使用してインストールを行うには、システム特権を持つ管理者 ユーザー アカウントとしてインストールを実行する必要があります。

## MSI テクノロジの使用

MSI テクノロジを使用してコマンド ラインによるインストールを実行する場合は、MSI ファイルを使用してインストール処理を実行します。

次の表は、Pervasive PSQL v11 の各製品と、その Pervasive PSQL v11 製品に関連付けられているセットアップ実行可能ファイル名および MSI ファイル名を示しています。

表 1 Pervasive PSQL v11 MSI およびセットアップ実行可能ファイルの名前

製品名	セットアップ実行可能ファイル	MSI 実行可能ファイル
サーバー エンジン (64 ビット)	SetupServer_x64.exe	PervasivePSQlv11Server_x64.msi
サーバー エンジン (32 ビット)	SetupServer_x86.exe	PervasivePSQlv11Server_x86.msi
クライアント エンジン (64 ビット)	SetupClient_x64.exe	PervasivePSQlv11Client_x64.msi
クライアント エンジン (32 ビット)	SetupClient_x86.exe	PervasivePSQlv11Client_x86.msi
ワークグループ エンジン (32 ビット)	SetupWorkgroup_x86.exe	PervasivePSQlv11WGE_x86.msi



**ヒント** MSI オプションが Pervasive PSQL v11 製品のインストール時にどのように使用されるかについては、「[MSI オプションを使用したインストール](#)」および「[MSI オプションと PTKSetup.ini 設定を使用したインストール](#)」で例を参照してください。

## PTKSetup.ini

PTKSetup.ini ファイルは Pervasive PSQL の各製品のインストールに含まれています。このファイルはインストール メディアの MSI 実行可能ファイルがある同じフォルダーにあります。PTKSetup.ini ファイルの各セクションには、サポートされるキーと指定可能な値についての説明があります。

PTKSetup.ini ファイルには 2 つの主要セクションがあります。[PROPERTIES] セクションでは、サイレント インストール時または有人インストール時に使用可能なオプションを提供します。[Registry Migration] セクションは Pervasive PSQL v10 より前のバージョンの Pervasive PSQL にのみ適用されます。このセクションについては後で詳しく説明します。



---

**注意** 組み込む製品エディションに付属している PTKSetup.ini ファイルを必ず使用してください。各エディションのテクノロジーやインストールには違いがあるため、この初期設定ファイルは製品ごとに異なります。

---

## [PROPERTIES] セクション

次の表は、PTKSetup.ini の [PROPERTIES] セクションで使用可能なカスタマイズのカテゴリと、各カテゴリのキーについて概説します。

表 2 PTKSetup.ini のプロパティのカテゴリとキー

カテゴリ	キー
セットアップのタイプ	PVSW_PSQL_INSTALL_TYPE
Destination Folder (カスタム セットアップのみ)	PVSW_PSQL_SKIP_INSTALLDIR
Directory Locations (カスタム セットアップのみ)	PVSW_PSQL_DATADIR PVSW_PSQL_INSTDIR32 PVSW_PSQL_INSTDIR64 PVSW_PSQL_ARCHIVE_DIR
Registration Page	PVSW_PSQL_UI_NO_REGISTER PVSW_OEM_REGISTER_HTML
License (ワークグループ エンジンまたはサーバー エンジンのみ)	PVSW_PSQL_LICENSE_KEY PVSW_PSQL_SKIP_LICENSE
Engine as Service or Application (ワークグループ エンジンまたはキャッシュ エンジンのみ)	PVSW_RUN_CCE_AS_SVC PVSW_RUN_WGE_AS_SVC PVSW_APP_WAIT_TIME
XIO (Xtreme I/O) (32 ビットサーバー エンジンのみ)	PVSW_PSQL_INSTALL_XIO
Optional Features - Custom Setup Only	
Data Access Features	PVSW_PSQL_INSTALL_ACTIVEX PVSW_PSQL_INSTALL_ADONET PVSW_PSQL_INSTALL_BTRBOX PVSW_PSQL_INSTALL_DTO PVSW_PSQL_INSTALL_JCL PVSW_PSQL_INSTALL_JDBC PVSW_PSQL_INSTALL_OLEDB PVSW_PSQL_INSTALL_PDAC

表 2 PTKSetup.ini のプロパティのカテゴリとキー

カテゴリ	キー
Java Utilities Feature	PVSW_PSQL_INSTALL_DDFB PVSW_PSQL_INSTALL_PCC PVSW_PSQL_INSTALL_DOCUMENTATION PVSW_PSQL_INSTALL_NOTIFYVIEWER PVSW_PSQL_INSTALL_JAUTILS
Other Utility Features	PVSW_PSQL_INSTALL_CBOL PVSW_PSQL_INSTALL_COREUTILS PVSW_PSQL_INSTALL_PSA



ヒント 各種プロパティのキーの詳細については、インストールパッケージに含まれている PTKSetup.ini ファイルの情報を参照してください。

## [Registry Migration] セクション

PTKSetup.ini ファイルの 2 番目のセクションは、Pervasive PSQL v10 以前のバージョンからアップグレードする場合にのみ使用できます。最新バージョンの Pervasive PSQL へアップグレードする間に、このセクションに指定されたレジストリ設定を移行することによって、Pervasive PSQL v9 以前の構成設定を維持します。



ヒント 各種設定についてはすべて、『Advanced Operations Guide』で詳しく説明しています。

## レジストリ移行設定の書式

[Registry Migration] セクションでは、各種設定について以前のバージョンの設定が等号 (=) の左側に記載され、等号の右側に Pervasive PSQL 用の設定が記載されています。

レジストリ移行設定には次のような書式を使用します。

<古いバージョン>=<新しいバージョン>

## レジストリ移行設定の使用

インストール時に Pervasive PSQL v10.0 より前のバージョンから移行しない設定についてはコメント行にします。移行されるキーが既に存在する場合、以前のレジストリ設定は移行された設定に置き換わります。



---

**メモ** Pervasive PSQL v10 以上のバージョンをアップグレードする場合、Pervasive PSQL のインストールではこのセクションを参照せず、すべての設定を自動的に移行します。

---

現在の設定を確認するには bcfg ユーティリティを使用します。このユーティリティについては『Advanced Operations Guide』を参照してください。このユーティリティを使用すれば、現在の設定を取得して確認することができるので、設定の変更が必要かどうかを判断するのに役立ちます。

## Pervasive PSQL のインストール実行後の設定

Pervasive PSQL のインストール後、Distributed Tuning Interface (DTI) で使用可能な関数を使用して、お使いの Pervasive PSQL エンジンの設定やチューニングを行うことができます。DTI の関数を使用すれば、現在の設定を調べたりプログラムから設定を変更したりするなど、さまざまなタスクを実行することができます。

Pervasive PSQL エンジンの設定を行うための DTI 関数の使用に関する詳細については、『Distributed Tuning Interface Guide』の「DTI 関数グループ」セクションにある関数の一覧を参照してください。

Pervasive DTO オブジェクトは、DTI インターフェイスと同様、Pervasive Control Center 機能を実行するための COM インターフェイスです。

## システム パフォーマンスの向上

ワークステーションを復旧するための方法として再イメージ化やその他の技術を採用し、「システムの復元」を使用しない企業の場合は、インストーラー動作の「システムの復元」を無効にすることによって、システムの復元ポイントを作成するための時間やディスク スペースが不要になりパフォーマンスを向上させることができます。

「システムの復元」を無効にするには、お使いのオペレーティング システムに固有の詳細な情報について、Microsoft のヘルプシステムを参照してください。

この設定はインストーラーが開始する復元動作のみに影響します。またこの設定はグループ ポリシーで使用することができ、各ワークステーションへの配置を支援します。



---

**メモ** 「システムの復元」は非常に重要な Windows の機能であるため、ほとんどの状況において、この機能を無効にすることはお勧めできません。このルールを適用できるのは、企業のシナリオとして、この機能を使用しないとしている場合のみです。

---

---

## インストールのシンプルなカスタマイズ

以下の3つの方法のいずれかを使用することで、インストールに対して簡単なカスタマイズが行えます。

- 「[MSI オプションを使用したインストール](#)」
- 「[PTKSetup.ini 設定を使用したインストール](#)」
- 「[MSI オプションと PTKSetup.ini 設定を使用したインストール](#)」

### MSI オプションを使用したインストール

ここでは、Windows インストーラーに含まれているオプションとパラメーターを使用した、インストールのカスタマイズについて説明します。

#### サイレント インストール

この `quiet` オプションを使用すると、ユーザーが介入することなくインストールが実行できます。サイレント インストールではそれ以外の別のインストールを自動的に起動することはできません。サイレント インストールの場合は、製品が完全な最新版になるよう別のインストールを実行する必要がある場合もあります。「[サイレント インストールで特に考慮すべき点](#)」を参照してください。

以下の手順では、コマンド ラインから、`quiet` オプションを指定して Pervasive PSQL v11 をインストールする方法について説明します。



---

**メモ** インストール先のシステムに Microsoft Windows Installer (MSI) 3.1 以上がインストールされている場合は、下記の MSIEEXEC プログラム用の手順を使用します。インストール先のシステムに MSI 3.1 以上があるかどうか不明な場合は、セットアップ実行可能ファイルを使用してインストールしてください。「[セットアップ実行可能ファイルを使用したサイレント インストールの例](#)」を参照してください。

---

➤ `quiet` (サイレント) オプションを使用して Pervasive PSQL をインストールするには

- 1 コマンド プロンプトから次のコマンドを入力します。

```
MSIEEXEC.EXE /i <PervasiveProductName>.msi  
TRANSFORMS=1041.mst /qn
```

インストール プログラムはユーザーが介入することなくバックグラウンドで実行します。

- 2 現在のリリースに製品アップデートが含まれている場合はそれをインストールします。「[現在のリリース用の製品パッチ](#)」を参照してください。



---

メモ コマンドライン構文の詳しいドキュメントについては Windows Installer SDK を参照してください。

---

### ➤ quiet (サイレント) オプションを使用して Pervasive PSQL をアップグレードするには

- 1 既存の製品（アップグレード元の製品）に適用可能な製品アップデートがある場合は、最初にそれをインストールします。「[製品をアップグレードするためのパッチ](#)」を参照してください。
- 2 「[セットアップ実行可能ファイルを使用したサイレント インストールの例](#)」で説明されているセットアップ実行可能ファイル、または「[quiet \(サイレント\) オプションを使用して Pervasive PSQL をインストールするには](#)」で説明されている MSIEXEC プログラムのいずれかを使用して Pervasive PSQL をインストールします。

インストール先のシステムに Microsoft Windows Installer (MSI) 3.1 以上がインストールされている場合は、MSIEXEC プログラムを使用します。インストール先のシステムに Microsoft Windows Installer (MSI) 3.1 以上があるかどうか不明な場合は、セットアップ実行可能ファイルを使用します。

- 3 現在のリリースに製品アップデートが含まれている場合はそれをインストールします。「[現在のリリース用の製品パッチ](#)」を参照してください。

## サイレント インストールで特に考慮すべき点

サイレント インストールではそれ以外の別のインストールを自動的に起動することはできません。サイレント インストールの場合は、製品が完全な最新版になるよう別のインストールを実行する必要がある場合もあります。そのような独立したインストールの例には次のようなものがあります。

- 「[製品をアップグレードするためのパッチ](#)」
- 「[現在のリリース用の製品パッチ](#)」

### 製品をアップグレードするためのパッチ

アップグレードとは旧バージョンのリリースから現在のリリースに移行することです。現在のリリースにアップグレードする前に、パッチを適用しておく必要がある場合があります。現在のリリース用の `readme` ファイルを

参照してください。これには必要なアップグレード パッチが挙げられています。アップグレード パッチが使用可能であれば、最初にそれをインストールします。



**ヒント** このガイドの例では、Vista システムでの実行をより高速にするために、"eom" ログ フラグを使用します。このオプションは、エラー情報のみを含むログ ファイルを生成します。エラーが発生した場合は、サポートへ問い合わせる前に、"/l\*v" ログ オプションを使ってコマンドを再実行し、詳細なログ ファイルを生成してください。

たとえば、Pervasive PSQL v10 から Pervasive PSQL v10 SP1 へのアップグレードに対しオプションのパッチが使用できます。Pervasive PSQL v10 用に保存した個別の設定を保持したい場合はパッチをインストールします。このパッチは Pervasive Web サイトからのみ使用可能です。

コマンド プロンプトから以下のコマンドを使用してパッチをインストールします。

```
Product_type_platform.msp /qn /leom "%temp%\product_pre-UpgradePatch.log"
```

この場合、

Product は製品を示し、type および platform は製品の種類と製品を実行するプラットフォームを示します。たとえば、PSQLversionPatch\_Client\_x86.msp は、32 ビット プラットフォームの Pervasive PSQL クライアントを参照します。

### 現在のリリース用の製品パッチ

現在のリリース用のパッチは「製品アップデート」と呼ばれます。製品の現在のリリースによっては、サイレント インストールの後に製品アップデートを適用する必要がある場合もあります。製品アップデートが必要な場合、インストール メディアの ~¥Redist¥PVS¥PSQL¥Patches¥ フォルダーにそのアップデートがあります。

そのフォルダーのパッチをインストールすると現在のリリースが確実に最新版になります。たとえば、以下のコマンドは 32 ビット版の Pervasive PSQL サーバー用の製品アップデートをインストールします。

```
path_to_installation_media¥Redist¥PVS¥PSQL¥Patches¥PSQLversionPatch_Server_x86.msp /qn /leom "%temp%\PSQLversion_post-InstallPatch.log"
```

### サイレント インストールが終了したことを判断する

サイレント インストールが終了したかどうかを判断するために次のいずれかの方法を使用できます。

- 1 /qb、/qb!、/qb+、/qb-、/qb などの標準的な UI オプションのうちの1つを指定して Pervasive PSQL のインストールが実行されるよう、Windows Installer Process (msiexec.exe) に渡されるコマンドを修正します。MSI の UI レベルに関する詳しい情報については、Web サイトの Microsoft Developer Network (MSDN) ライブラリを参照してください。

setup.exe コマンド ライン オプション /v の後のすべてが msiexec.exe に渡されることに注意してください。InstallShield ランチャー (setup.exe) を使用して msiexec.exe コマンド ライン オプションを渡す方法の詳細については、Macrovision Helpnet Web サイトをご覧ください。

- 2 インストール コマンドを順に実行する Windows バッチ スクリプトを作成します。バッチ スクリプトが完了すると、サイレント インストールが終了します。

64 ビット版 Pervasive PSQL サーバーをインストールするバッチ スクリプトは次のとおりです。

```
@echo off

set TS_FILE=%windir%¥system32¥change.exe
set PSQL_EXE=%cd%¥Server¥SetupServer_x64.exe
set PSQL_LOG=%temp%¥SetupServer_x64.log"

set MODE=REALLYSUPPRESS

set PSQL_EXE_CLI=/S /v"/leom %PSQL_LOG% /qn
REBOOT=%MODE%

set PSQL_MSP_PATH=%cd%¥Server¥Redist¥PVSWS¥PSQL¥
patches
set PSQL_MSP=%PSQL_MSP_PATH%¥
PSQLversionPatch_Server_x64.msp
set PSQL_MSP_LOG=%temp%¥
PSQLversionPatch_Server_x64.log
set PSQL_MSP_CLI=/leom %PSQL_MSP_LOG% /qn
REBOOT=%MODE%

echo Pervasive PSQL Install
echo ...changing to 'install' mode
echo   for terminal services systems
if EXIST "%TS_FILE%" change user /install
echo run main PSQL MSI Installer
"%PSQL_EXE%" %PSQL_EXE_CLI%
```

```

if NOT exist "%PSQL_MSP%" goto RESUME
echo run PSQL Patch Installer
"%PSQL_MSP%" %PSQL_MSP_CLI%
:RESUME
echo -- Reset install mode, if needed
if EXIST "%TS_FILE%" change user /execute
echo PSQL Install Complete

```



**メモ** この例は 64 ビット版のサーバー用です。その他の製品の場合は、インストーラー名やログ ファイルを各製品に応じた適切な名前に変更してください。また、Windows Vista などの特定のオペレーティングシステムの場合は、Administrator（管理者）としてバッチ スクリプトを実行する必要があります。お使いのオペレーティングシステムに応じた、バッチ スクリプトを実行するための適切な権限を必ず持っている必要があります。

## PTKSetup.ini 設定を使用したインストール

このセクションでは、PTKSetup.ini 設定を使用するカスタム インストールをコマンド ラインから実行する作業例を示します。PTKSetup.ini 設定を使用するインストール方法には、この INI ファイルで設定を指定し、コマンド ラインからオプションを指定しないでインストールを実行するというもう 1 つの方法もあります。

PTKSetup.ini ファイルで値を設定することはできますが、INI キーや値をこのファイルに追加することはできないので注意してください。このファイルに INI キーや値を追加しても、それらが Pervasive Software で定義されていなければインストール処理で無視されます。

### Pervasive PSQL キーの指定

Pervasive PSQL v11 より前のバージョンの Pervasive PSQL で、Pervasive PSQL キーは PTKSetup.ini ファイルで属性として指定できました。そのため、複数のインストールで同じキーを使用できました。本バージョンではインストールごとに独自の一意キーが必要となります。従来どおり、PTKSetup.ini にキーを指定することはできますが、そのキーはインストールが実行されるマシンごとに一意でなければなりません。

キーの配布にはさまざまな手段が用いられます。たとえば、パッケージの箱の上にキーを印刷する、箱の中に同梱する、エンド ユーザーへの電子メールに記載するなどの手段があります。キーの配布にどのような方法を用いたとしても、PTKSetup.ini におけるキーの一意性を保証する 1 つの方

法は、アプリケーションのインストールでエンド ユーザーにキーの入力を促すことです。その後、アプリケーションのインストールで PTKSetup.ini のローカル コピーにそのキーを書き込むことができ、PTKSetup.ini を使用するインストール処理を続行します。PTKSetup.ini に有効なキーが指定されている場合、Pervasive PSQL インストール処理によってそのキーが自動的に認証されます。キーが有効であるということは、インストールが実行されるマシンに対してキーが一意であるということです。

### オプション機能のインストール

次の手順では、コマンド ラインからオプション機能を使用して Pervasive PSQL v11 をインストールする方法について説明します。

#### ➤ Pervasive PSQL をマニュアルなしでインストールするには

- 1 DOS コマンド プロンプト ウィンドウを開きます。
- 2 次のコマンドを入力します。

```
MSIEXEC.EXE /i "<PervasiveProductName>.msi"  
PVSQW_PSQL_INSTALL_DOCUMENTATION=0  
TRANSFORMS=1041.mst
```

- 3 Enter キーを押します。

インストールプログラムは、オプション機能の一覧からマニュアル オプションを削除して実行します。

#### ➤ キーの認証を含む Pervasive PSQL のインストール

- 1 DOS コマンド プロンプト ウィンドウを開きます。
- 2 インストールが実行されるマシンに対する一意のキーを使用して、以下のコマンドを入力します。

```
MSIEXEC.EXE /i "<PervasiveProductName>.msi"  
PVSQW_PSQL_LICENSE_KEY=NG2ZE-ZKS3C-D2CFK-9IR6K-G2C3X  
TRANSFORMS=1041.mst
```

「[Pervasive PSQL キーの指定](#)」も参照してください。

## MSI オプションと PTKSetup.ini 設定を使用したインストール

PTKSetup.ini ファイルの設定に加えて MSI オプションとパラメーターも使用して、Pervasive PSQL v11 インストールをカスタマイズすることができます。この方法を使用すれば、PTKSetup.ini 内のプロパティを無効にし、コマンド ラインから追加オプションを使ってインストールを実行できます。

このセクションでは、これらの両方のオプションを使用してカスタマイズされたインストールの作業例を提供します。ここで提供する例は、前述の例で使用した、PTKSetup.ini ファイルで値を設定する方法とコマンド ラインでオプションを指定する方法を組み合わせたものです。

➤ Pervasive PSQL をマニュアルなしで quiet オプションを使ってインストールするには

- 1 PTKSetup.ini ファイルで、以下のプロパティを探します。  
;PVSW\_PSQL\_INSTALL\_DOCUMENTATION=1
- 2 このプロパティの値を 0 に変更し、次のようにします。  
PVSW\_PSQL\_INSTALL\_DOCUMENTATION=0



ヒント 必ず先頭の ";" を削除してコメントを外し、プロパティが含まれるようにしてください。

- 3 DOS コマンド プロンプト ウィンドウを開きます。
- 4 次のコマンドを入力します。  
MSIEXEC.EXE /i <PervasiveProductName>.msi  
TRANSFORMS=1041.mst /qn
- 5 Enter キーを押します。  
これで、インストールプログラムはバックグラウンドでサイレントに実行され、ユーザー マニュアルはインストールされません。  
「サイレント インストールで特に考慮すべき点」も参照してください。

➤ Pervasive PSQL をキーの認証付きで Quiet オプションを使ってインストールするには

- 1 PTKSetup.ini ファイルで、以下のプロパティを探します。  
;PVSW\_PSQL\_LICENSE\_KEY=
- 2 次に示すように、このプロパティの値を、インストールが実行されるマシンに対する一意のキーに変更します。  
PVSW\_PSQL\_LICENSE\_KEY=NG2ZE-ZKS3C-D2CFK-9IR6K-G2C3X  
「Pervasive PSQL キーの指定」も参照してください。
- 3 DOS コマンド プロンプト ウィンドウを開きます。
- 4 次のコマンドを入力します。  
MSIEXEC.EXE /i <PervasiveProductName>.msi  
TRANSFORMS=1041.mst /qn
- 5 Enter キーを押します。  
これで、インストールプログラムはバックグラウンドでサイレントに実行され、ユーザー マニュアルはインストールされません。  
「サイレント インストールで特に考慮すべき点」も参照してください。

## セットアップ実行可能ファイルで別の設定ファイルの場所を使用する

MSI のパブリック プロパティである PVSW\_CFG\_FILE を設定して完全に修飾されたファイルパス名を渡すことによって、別の設定ファイルを使用することができます。このプロパティは、コマンド ラインで Windows のプロセス (msiexec) に渡す必要があります。

このプロパティを渡す前に、プロパティにスペースが含まれているかどうかを確認します。このプロパティにスペースが含まれていない場合は、次の例のように指定します。

```
SetupName.exe /V"PVSW_CFG_FILE=c:¥temp¥
ConfigFile.ini"
```




---

**メモ** /V コマンド ライン オプションの後にスペースを入れないでください。

---

プロパティにスペースが含まれている場合は、次の例に示すように、そのプロパティの値を二重引用符で囲み、先頭に円記号 (¥) を付ける必要があります。

```
SetupName.exe /V"PVSW_CFG_FILE=¥"c:¥Documents and
Settings¥UserName¥temp¥ConfigFile.ini¥"
```

上記の例を組み合わせ使用すれば、MSI の複数のプロパティ設定を渡すこともできます。

```
SetupName.exe /V"PROPERTY1=0 PROPERTY2=¥"c:¥My
Path¥Some File.txt¥"
```

## MSI 実行可能ファイルで別の設定ファイルの場所を使用する

対象とするターゲット システムに、現在サポートされている Windows インストーラーのバージョンがある場合は、MSI 実行可能ファイルを使用するだけです。MSDN のサポート技術情報 (Knowledge Base) で Windows インストーラーのコマンド ライン オプションに関するトピック「Command-Line Options」(英語) に記載されている MSI パブリック プロパティを指定する手順に従います。

```
msiexec.exe /i "{パス}¥MSIPackage.msi" PROPERTY1="プロパティ値
" PROPERTY2=0
```

## インストールの高度なカスタマイズ

このセクションでは、Pervasive PSQL v11 の組み込みインストールに対して高度なカスタマイズを行う方法について詳しく説明します。Pervasive PSQL はインストールの高度なカスタマイズ方法として以下をサポートします。

- 「[CAB ファイルを使用したインストール パッケージ サイズと各種機能の変更](#)」
- 「[カスタム ファイル選択による組み込みインストールの開発](#)」
- 「[インストールをカスタマイズする変換の作成](#)」

### CAB ファイルを使用したインストール パッケージ サイズと各種機能の変更

Pervasive PSQL v11 インストールにはキャビネット (CAB) ファイルが含まれています。このファイルはご自身のインストールパッケージから削除することによってインストールパッケージの全体のサイズを削減したり、不要なファイルを使用しないようにすることができます。これらのファイルを削除すると、カスタム セットアップ時にグラフィカル ユーザー インターフェイスで使用可能な機能のリストから該当する機能を自動的に削除します。

#### CAB ファイルを使った作業と機能のアップデート

CAB ファイルは、MSI 実行可能ファイルやセットアップ実行可能ファイルがある同じディレクトリにあります。先頭にアンダースコア ( ) が付く CAB ファイルがそのインストール タイプに必要なものです。インストール タイプごとに必要なファイルのリストについては、「[必要なファイル](#)」を参照してください。

Pervasive PSQL 10.x の将来のリリースでは、CAB ファイルのコア セットは変わりません。ただし、Pervasive PSQL へのアップデートには、新たに追加されたコンポーネントや機能を担うために、Pervasive PSQL v11 でリリースされているオリジナル セットから追加された CAB ファイルが含まれます。新しい CAB ファイルが存在する場合、Pervasive PSQL へのアップデートでは追加の CAB ファイルの生成が必要となる可能性があります。インストール タイプ用のファイルの最新セットと、インストールしようとするオプション機能を確認して入手してください。

## 必要なファイル

必要な CAB ファイルはアンダースコアで指定されます。次の表は、各インストールタイプに必要なキャビネットファイルの一覧を示します。

表 3 エンジンのインストールタイプ別に必要なキャビネットファイル

キャビネットファイル	サーバー 64	サーバー 32	クライアント 64	クライアント 32	ワークグループ
_CE32.cab				⊖	
_CE32_64.cab			○	○	
_Core.cab	○	○		○	○
_DbEng32.cab		○			○
_DbEng.cab	○	○			○
_PSQL32.cab		○		○	○
_PSQL64.cab	○		○		
_PSQL.cab	○	○	○	○	○
_Srvr32.cab		○			
_Srvr64.cab	○				
_SrvrEng.cab	○	○			
_WGC.cab				○	○
_WGE.cab					○

## オプション機能

次の表は、インストールタイプ別に適用されるオプション機能の一覧を示します。

表 4 エンジンのインストールタイプ別オプション機能のキャビネットファイル

キャビネットファイル	サーバー 64	サーバー 32	クライアント 64	クライアント 32	ワークグループ
ActiveX.cab	○	○		○	○
ADONET.cab	○	○	○	○	○
BtreveDos.cab	○	○		○	○
CSE32Cmn.cab	○	○		○	○

表 4 エンジンのインストール タイプ別オプション機能のキャビネット ファイル

キャビネット ファイル	サーバー 64	サーバー 32	クライアント 64	クライアント 32	ワークグループ
CSE32Eng.cab		○			○
CSE64Eng.cab	○				
CSECMEng.cab	○	○			○
DDFB.cab	○	○		○	○
Docs.cab	○	○		○	○
DTO64.cab	○		○		
DTO.cab	○	○	○	○	○
EclipRCP.cab	○	○		○	○
JCL.cab	○	○		○	○
JDBC.cab	○	○		○	○
JRE6.cab	○	○		○	○
JreUtils.cab	○	○		○	○
NVUtil.cab	○	○			○
OLEDb.cab	○	○		○	○
PCC.cab	○	○		○	○
PDAC.cab	○	○		○	○
PSA.cab	○	○		○	○
Utils2.cab	○	○		○	○
Utils.cab	○	○		○	○
WPMCS32.cab		○			
WPMCS64.cab	○				
XIO.cab		○			

## オプション機能の要件

一部のオプション機能では、その機能を有効にするために別のコンポーネントが必要な場合があります。以下の表には、別のコンポーネントを必要とするオプション機能を一覧表示します。

表 5 オプション機能のキャビネット ファイルの要件

	Cobol Schema Executor	Data Dictionary File Builder	Pervasive PSQL Control Center	Pervasive System Analyzer	Pervasive ユーザー向けドキュメント	Notification Viewer
CSE32Cmn.cab	○					
CSE32Eng.cab	○					
CSE64Eng.cab	○					
CSECMEng.cab	○					
DDFB.cab		○				
Docs.cab					○	
EclipRCP.cab		○	○		○	○
JRE6.cab		○	○		○	○
JreUtils.cab						○
NVUtil.cab						○
PCC.cab			○		○	
PSA.cab				○		
Utils2.cab	○	○	○	○		
Utils.cab	○	○	○	○		

## CAB ファイル インストールの例

CAB ファイルを使用したインストールのカスタマイズの例を以下に示します。この例は、ワークグループ エンジンのインストールに、唯一のオプション機能としてドキュメントを加えます。



**メモ** ドキュメントには、Eclipse フレームワークと Pervasive PSQL Control Center をインストールする必要があります。

➤ ワークグループ エンジンとドキュメントをパッケージするには

1 ワークグループ エンジン用に必要な CAB ファイルを選択します（「[エンジンのインストール タイプ別に必要なキャビネット ファイル](#)」を参照）。これらのファイルは以下のとおりです。

- \_Core.cab
- \_DbEng32.cab
- \_DbEng.cab
- \_PSQL32.cab
- \_WGC.cab
- \_WGE.cab

2 ドキュメント用のオプション機能 CAB ファイルを選択します（「[オプション機能のキャビネット ファイルの要件](#)」を参照）。これらのファイルは以下のとおりです。

- Docs.cab
- EclipRCP.cab
- PCC.cab
- JRE6.cab

上記の 2 つの手順で挙げたファイルは、ワークグループ エンジンとドキュメントをインストールするために必要な CAB ファイルです。その他の CAB ファイルはインストール パッケージから削除しても構いません。

## カスタム ファイル選択による組み込みインストールの開発

Pervasive PSQL インストールをご自分のアプリケーションに組み込むもう 1 つの方法は、カスタム ファイル選択を使用することです。これは、「チェリーピッキング（良いもののみを選ぶこと）」と呼ばれることもあります。この方法を使用すれば、個々のファイルレベルで Pervasive PSQL コンポーネントを選択することができます。

## インストールをカスタマイズする変換の作成

組み込みインストールをカスタマイズするもう 1 つの高度な方法は、Windows インストーラーによる変換ファイル (MST) を作成することです。インストールをカスタマイズするために変換ファイルを作成する手法は、カスタマイズされたインストール用にカスタム ファイル選択を使用する方法と異なり、インストール時により柔軟に機能が選択でき、MSI テクノロジーに関連する機能を保持し、またアップグレードやパッチを簡単に適用することができます。

MSI 変換を生成するには、インストール データベースを操作する必要があります。変換ファイルを生成に使用できるツールがいくつかあります。こ

これらのツールとは Windows プラットフォーム SDK の InstallShield、Microsoft Orca または MSI ユーティリティ です。

### ショートカットなしの組み込みインストールの作成

カスタマイズされたインストールに変換ファイルを使用する例は、ショートカットをインストールしない Pervasive PSQL のインストールが挙げられます。このタイプの手法を実践する手順を以下に説明します。

- 1 元の Pervasive PSQL MSI パッケージのコピーを作成します。たとえば、PervasivePSQLv11WGE\_x86\_copy.msi とします。
- 2 InstallShield または Orca などの Windows インストーラー テーブル エディターを使用してそのデータベースのコピーを開きます。
- 3 Shortcut テーブルで、InstallExecuteSequence レコードにおける Action=CreateShortcuts の Condition 値を変更します。

現在の InstallExecuteSequence レコード

```
CreateShortcuts <null_value> 5500
```

修正後の InstallExecuteSequence レコード

```
CreateShortcuts NOSHORTCUTS 5500
```



---

**メモ** "NOSHORTCUTS" などの未定義のプロパティ名を追加すると、アクションが省かれるのでショートカットが作成されません。

---

- 4 2つのパッケージを比較して変換ファイルを生成できるツール (InstallShield/Orca/MSI ユーティリティ) を使って、元の MSI インストール ファイル PervasivePSQLv11WGE\_x86.msi と変更したコピーの PervasivePSQLv11WGE\_x86\_copy.msi を比較し、MSI 変換ファイル (MST) を生成します。
- 5 生成した変換ファイルに MyTransform.MST などの一意の名前を付けます。
- 6 変換ファイルには一緒にインストール ファイルを含め、コマンド ラインで TRANSFORMS プロパティに変換の名前を設定する変更を行います (TRANSFORMS=MyTransform.MST)。

生成した変換ファイルの使用については以下の変更例を参照してください。

## セットアップ実行可能ファイルを使用したサイレント インストールの例

次の例は、ユーザーの一時フォルダーにログ ファイルを作成します。

```
SetupWorkgroup_x86.exe /s /v"/qn
REBOOT=ReallySuppress /leom ¥"%TEMP%¥
PSQL_version_Install.log¥"
TRANSFORMS=MyTransform.MST"
```

次の例は、ユーザーの一時フォルダーにログ ファイルを作成し、ライセンス キーとサービス インストール オプションを指定します。

```
SetupWorkgroup_x86.exe /s /v"/qn
REBOOT=ReallySuppress PVSW_PSQL_LICENSE_KEY={ キー
値 } PVSW_RUN_WGE_AS_SVC=Y
TRANSFORMS=MyTransform.MST /leom ¥"%TEMP%¥
PSQL_version_Install.log¥"
```

## MSI 実行可能ファイルを使用したサイレント インストールの例

次の例は、ユーザーの一時フォルダーにログ ファイルを作成し、ライセンス キーとサービス インストール オプションを指定します。

```
msiexec.exe /i {パス}¥
PervasivePSQLversionWGE_x86.msi /qn
REBOOT=ReallySuppress PVSW_PSQL_LICENSE_KEY={ キー
値 } PVSW_RUN_WGE_AS_SVC=Y
TRANSFORMS=MyTransform.MST /leom "%TEMP%¥
PSQL_version_Install.log"
```

---

## 製品アップデート（パッチ）のアンインストール

多くの場合、Windows システムにある Pervasive PSQL に適用された製品アップデートは、その製品アップデートをアンインストールすることによってロールバックすることができます。アンインストールによって、アップデートされている Pervasive PSQL バイナリを製品アップデート適用前の以前のバージョンの状態に戻します。

Windows Vista にインストールされた Pervasive PSQL 用のパッチは、インストールされた更新プログラムを表示] を選択したときにソフトウェア エクスプローラー ([プログラムのアンインストールまたは変更]) には表示されません。これは、Pervasive PSQL をアンインストールまたは変更する場合は、ユーザーに対し必ず管理者へ昇格するよう要求する機能が Pervasive PSQL にあるためです。

Pervasive PSQL 用の製品アップデートをコマンド ラインからアンインストールするには、以下の方法があります。

- インストールに使用した元のインストールパッケージ (MSI) または製品コード GUID にアクセスします (Pervasive PSQL の各インストールタイプにはそれぞれ個別の製品コード GUID があります)。
- 元のパッチ (.MSP) ファイルにアクセスします。

以下のコマンドのどちらかを使用して製品アップデートをアンインストールします。

```
msiexec /package <{MSI のパス} または 製品コード GUID> /  
uninstall <MSP のパス> /leom %temp%\uninstall_patch.log
```

または

```
msiexec /i <{MSI のパス} または 製品コード GUID>  
MSIPATCHREMOVE=<MSP のパス> /leom %temp%\  
uninstall_patch.log
```



---

**メモ** 製品アップデートが作成された時点で知られていない特定の状況では、いくつかの Pervasive PSQL 製品アップデートがアンインストールされない場合もあります。"Uninstallation of the patch package is not supported" (このパッチパッケージのアンインストールはサポートされません) という警告メッセージが表示された場合は、その製品アップデートをアンインストールすることはできません。ログ ファイルを作成するサイレント アンインストール コマンドの場合、ログ ファイルに最後に "Uninstallation of the patch package is not supported" というテキストが含まれます。

---

# 索引

## C

### CAB

- ファイルと将来のアップデート, 作業.. 17
- ファイルのインストールの例..... 20

### CAB ファイル

- インストールパッケージ サイズの変更 17

## I

- Install Toolkit の使用 ..... 15

### Installation Toolkit

- msiexec.exe を使用 ..... 3
  - MSI オプション ..... 9
  - MSI オプションと PTKSetup.ini 設定..... 14
  - MSI テクノロジの使用..... 3
  - PTKSetup.ini 設定 ..... 13
  - PTKSetup.ini の使用 ..... 4, 6
  - Windows インストーラー ..... 1
  - インストール用 ..... 2
  - 概要 ..... 2
  - 概要, インストール ..... 2
  - シンプルなカスタマイズ ..... 9
- Installation Toolkit の概要 ..... 2

## J

### JRE

- インストール時の留意点 ..... 10

## M

### MSI

- 実行可能ファイル, サイレント インストールの例 ..... 23
  - 実行可能ファイル, 使用に適した状況.... 2
  - 実行可能ファイル, 別の設定ファイルの場所を使用する ..... 16
  - テクノロジー ..... 3
- Msiexec.exe, Installation Toolkit で使用 ..... 3
- MSI オプション
- PTKSetup.ini 設定, 一緒に使用したインストール ..... 14
  - 使用してインストール ..... 9

- MSI オプションと PTKSetup.ini 設定を使用したインストール ..... 14

- MSI オプションを使用したインストール .... 9

- MSI テクノロジ ..... 3

- msiexec.exe を使用 ..... 3

- インストールに使用 ..... 3

- 使用 ..... 3

### MSI パッケージ名

- Pervasive PSQL v11.x で使用..... 3

- インストールに使用 ..... 3

## P

### Pervasive PSQL Installation Toolkit 「Installation Toolkit」を参照

### Pervasive PSQL v11.x

- MSI ファイル名 ..... 3

- PROPERTIES セクション, PTKSetup.ini ..... 5

- PTKSetup.ini ..... 4

- 概念 ..... 4

- 設定, MSI オプションを使用したインストール ..... 14

- 設定, 使用してインストール ..... 13

- レジストリの移行設定 ..... 6

- PTKSetup.ini 設定を使用したインストール 13

## W

### Windows

- Installer SDK, 関連情報 ..... 10

- インストーラー, msiexec.exe ..... 3

- インストーラー テクノロジ ..... 3

## あ

- アップデート, CAB ファイルを使った作業 17

## い

### 移行

- 設定, レジストリの使用 ..... 7

- 設定の書式, レジストリ ..... 6

- インストーラー テクノロジ, Windows ..... 3

- インストール

CAB ファイルによるパッケージ サイズと機能の変更 .....	17
MSI オプションと PTKSetup.ini 設定の使用 14	
MSI オプションの使用 .....	9
MSI 実行可能ファイルを使用した例, サイレント .....	23
PTKSetup.ini 設定の使用 .....	13
quiet オプションの使用 .....	9
Quiet オプションを使用してキーの認証を実行 .....	15
Quiet オプションを使用してマニュアルを除外 .....	15
オプション機能 .....	14
オプション機能の使用 .....	14
カスタマイズ, 高度 .....	17
カスタマイズ, シンプル .....	9
カスタマイズする変換の作成 .....	21
カスタム ファイル選択, 組み込みの開発	21
キーの認証を含む .....	14
サイレント .....	9
サイレントに .....	9
サイレントに, 考慮すべき点 .....	10
シンプルなカスタマイズ .....	9
セットアップ実行可能ファイルを使用した例, サイレント .....	23
マニュアルを除外 .....	14
マニュアルを除外してサイレントに .....	14
例, CAB ファイル .....	20
インストール, サイレント用に特に考慮すべき点 .....	10
インストール中の認証 .....	14
インストールのカスタマイズ	
Install Toolkit の使用 .....	9
MSI オプションと PTKSetup.ini 設定の使用 14	
MSI オプションの使用 .....	9
PTKSetup.ini 設定の使用 .....	13
変換の作成 .....	21
インストールの高度なカスタマイズ .....	17
インストールのシンプルなカスタマイズ .....	9
インストールをカスタマイズする変換, 作成	21
インストールをカスタマイズする変換の作成 21	

## お

オプション, MSI を使用したインストール, 9	
オプション機能 .....	18
要件 .....	20
オプション機能のインストール, Install Toolkit の使用 .....	14
オプションと PTKSetup.ini 設定, MSI を使用し たインストール .....	14

## か

開発	
カスタム ファイル選択による組み込みイン ストール .....	21
概要, Installation Toolkit .....	2
カスタマイズ	
高度なインストール .....	17
シンプルなインストール .....	9
カスタム ファイル選択	
組み込みインストールの開発 .....	21
カスタム ファイル選択による組み込みイン ストール, 開発 .....	21
カスタム ファイル選択による組み込みイン ストールの開発 .....	21

## き

キーの認証 .....	15
Install Toolkit の使用 .....	14, 15
「製品の認証」を参照	
機能	
インストール, オプション .....	14
オプション .....	18
オプションの要件 .....	20

## さ

サイレント	
インストール .....	9
インストール, Install Toolkit の使用	9, 14, 15
インストール, 特に考慮すべき点 .....	10
サイレント インストール	
Install Toolkit の使用 .....	9, 14, 15
製品のアップデート .....	10
特に考慮すべき点 .....	10
パッチ .....	10
サイレント インストールで考慮すべき点, 特別	

サイレント インストールの例	
MSI 実行可能ファイル .....	23
セットアップ実行可能ファイル .....	23
作成	
インストールをカスタマイズする変換 .....	21
ショートカットなしの組み込みインス トール .....	22
<b>し</b>	
システム パフォーマンスの向上 .....	7
実行可能ファイル	
MSI で別の設定ファイルの場所を使用する 16	
MSI の使用に適した状況 .....	2
MSI を使用したサイレント インストールの 例 .....	23
セットアップで別の設定ファイルの場所を 使用する .....	16
セットアップの使用に適した状況 .....	2
セットアップを使用したサイレント イン ストールの例 .....	23
使用	
CAB ファイルと機能のアップデート .....	17
MSI オプション, インストール .....	9
MSI オプションと PTKSetup.ini 設定, イン ストール .....	14
MSI 実行可能ファイル .....	2
MSI 実行可能ファイル, サイレント イン ストールの例 .....	23
MSI テクノロジー .....	3
PTKSetup.ini 設定, インストール .....	13
セットアップ実行可能ファイル, サイレ ント インストールの例 .....	23
セットアップ実行可能ファイル, 使用に適 した状況 .....	2
別の設定ファイルの場所, MSI 実行可能 ファイルで .....	16
別の設定ファイルの場所, セットアップ実 行可能ファイルで .....	16
レジストリ移行設定 .....	7
使用に適した状況	
MSI 実行可能ファイル .....	2
セットアップ実行可能ファイル .....	2
将来のアップデート, CAB ファイルを使った作 業 .....	17
書式, レジストリの移行設定 .....	6

## せ

製品のアップデート	
アンインストール .....	24
サイレント インストール .....	10
設定	
MSI オプションと PTKSetup.ini 設定を使用 したインストール .....	14
PTKSetup.ini .....	4
PTKSetup.ini を使用したインストール ..	13
レジストリ移行の使用 .....	7
レジストリの移行の書式 .....	6
設定ファイルの場所	
MSI 実行可能ファイル, 別の場所を使用 16 セットアップ実行可能ファイル, 別の場所 を使用 .....	16
セットアップ実行可能ファイル	
サイレント インストールの例 .....	23
使用に適した状況 .....	2
別の設定ファイルの場所を使用する .....	16
選択, カスタム ファイルによる組み込みイン ストールの開発 .....	21

## て

テクノロジー, MSI .....	3
-------------------	---

## と

特に考慮すべき点	
サイレント インストールについて .....	10

## は

場所, MIS 実行可能ファイルで別の設定ファ イルを使用する .....	16
場所, セットアップ実行可能ファイルで別の設 定ファイルを使用する .....	16
パッケージ サイズ	
CAB ファイルによる変更 .....	17
パッチ	
アンインストール .....	24
およびサイレント インストール .....	10

## ひ

必要なファイル .....	18
---------------	----

## ふ

### ファイル

CAB とインストール パッケージ サイズ	17
MSI 実行可能ファイルによる場所, 別の設定 を使用する .....	16
セットアップ実行可能ファイルによる場所, 別の設定を使用する .....	16
必要 .....	18

### ファイル選択

カスタム ファイルによる組み込みインス トールの開発 .....	21
ファイルと将来のアップデート, CAB ファイル を使った作業 .....	17
ファイルのインストールの例, CAB .....	20

## へ

### 別の設定ファイルの場所

MSI 実行可能ファイル, 使用 .....	16
セットアップ実行可能ファイル, 使用 ..	16

## よ

要件, オプション機能 .....	20
-------------------	----

## れ

### 例

MSI 実行可能ファイル, サイレント インス トール .....	23
セットアップ実行可能ファイル, サイレント インストール .....	23

### レジストリ

移行セクション, PTKSetup.ini .....	6
移行設定, PTKSetup.ini .....	6
移行設定, 使用 .....	7
移行設定の書式 .....	6
レジストリ移行設定の書式 .....	6